

# 日本地球電気磁気学会会報 (第45号)

1970年6月18日

日本地球電気磁気学会

連絡先 東京都文京区弥生2丁目11の16

郵便番号 113

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111 内線6476

振替 東京 4860番

## 第47回 総会報告

日 時 昭和45年6月5日 15時40分～17時  
会 場 国分寺電波研究所講堂

田尾一彦会員の開会の辞に続いて、西田篤弘会員が力武委員長より総会議長に指名されて、総会が開始された。

1. 河野哲夫大会委員長より挨拶と歓迎の言葉が述べられた。

### 2. 報告

a 新入会員報告 6月2日までに入会された会員の紹介が別項の通りなされた。

b Swets & Zeitlinger社に対して、JGG バックナンバーのリプリントを認める契約を昨年6月に結んだが、いよいよ印刷が開始され、すでに vol. 1～15 と vol. 20 ができ上がった。それぞれコピー2部が学会事務所に届いている。

c JGG vol. 22 №1 と №2 は合併号として、昨年マドリードで開

かれた IAGA/IASPEI Symposium "Multidisciplinary Studies of Unusual Regions of the Upper Mantle" の特集になる。論文数は 21, 頁数は約 250 頁で, 6 月下旬に発行の予定である。

d 借成学術奨励金の案内が別項の通り, 学会事務所に届いている。

### 3. 田中館賞

力武委員長より, 鷹尾和昭, 平沢威男, 青山巖の三会員授与された後, 論文の審査経過の報告がなされた。

第 49 号 鷹尾和昭氏「人工衛星の電波追尾方法に関する研究」

第 50 号 平沢威男氏「地磁気脈動の励スベクトル研究」

第 51 号 青山巖氏「フラックス・ゲイト磁力計による弱磁場測定方法の開発とその応用」

### 4. 長谷川記念杯贈呈

金原淳会員に, 本学会ならびに地球電気磁気学界に対する功績をたたえて, 第 5 号長谷川記念杯ならびに感謝状が贈呈された。

5. 力武委員長より挨拶があった。まず長谷川記念杯を受けられた金原淳会員に祝辞を述べられた。また本学会推薦で, 前田憲一会員が東レ科学技術研究助成金を受けられたことの報告があり, お祝いの言葉が述べられた。

本年 3 月 5 日に逝去された, 名誉会員 D. F. Martyn 氏を悼んで, JGG vol 22, 163 に Obituary を載せることになったとの報告があった。また長谷川名誉委員長は, 今なお入院療養中で, 一日も早く全快されることを祈っているとの挨拶があった。

総会前の特別講演で, 上田誠也氏より海底拡大説に始る, Global tectonics の話があったが, マントル対流が現実性を帯びてきたので, Upper Mantle Project を発展させて, Geodynamics Project として国際協力を続けようという計画が進んでいる。海底拡大説のそもそもの出発点は地球電磁気学であるし, 日本列島は, マントル

対流の沈みこみに位置していると考えられているから、この方面の研究に対する当学会からの寄与が今後ますます増大することを期待したいとの挨拶があった。

6. 永田武会員より国際情勢の報告があった。まずレニングラードで5月11日—20日に開かれた「Solar-Terrestrial Physics 国際シンポジウム」について報告がなされた。二つのハイライトがあった。ひとつは、赤祖父氏の特別講演にあった Magnetospheric Substorm の問題であり、他のひとつは、Solar activity が地表近くの気象現象にまで影響をおよぼしている問題である。この二つの問題、特に最初の方は、当学会で熱心に研究されている問題であり、それらの研究が今後ますます推進されることが望ましいが、同時に我国での研究成果を、充分このような国際シンポジウムに紹介する努力を、なお一層払うことが大切であるとの話があった。

今後開催予定の国際研究集会として概略次のような説明があった。

- |           |       |                   |  |
|-----------|-------|-------------------|--|
| 1971年7—8月 | モスクワ  | IUGG 総会           | 本来なら行政的、事務的会合が主であるが、モスクワにおいては scientific session もフルに聞かれる。 |
| 1971年5—6月 | シアトル  | 第14回 COSPAR 総会    |  |
| 1972年夏    | ワルシャワ | URSI 総会           |  |
| 1973年     | (日本)  | IAGA シンポジウムおよび、総会 | 日本開催案が出されている。地物研連地球電磁気分科会では、前向きで考えようということになった。             |
| 1974年     | パリ    | IUGG 総会           |  |

最近 IUGG 改組案が論議されている。詳しく検討するために、Co 教授を Chairman とする 5 人の委員からなる小委員会が発足し、中間報告書をまとめた（別項参照のこと）。それによれば、URSI, IAGU, IUCSTP では同じ問題を重複してとり扱っている面があるので、これとめた上、IUGG の測地、地震、海洋、気象等をも含めた、ひとつの Union を構成するか、あるいは、いくつかの中程度の Union の連合、例えば Electromagnetism and Aeronomy, Geodesy and Physics of the Solid Earth, Physics of the Atmosphere and Ocean の三つの Union の連合体とする案とが提案されている。

最後に、関戸会員が IASY 後の国際協力研究事業の継続のため、精進努力を払われたとの報告があった。

## 7. 議 事

定足数 121 名を上回る 125 名（出席者 93，委任状 32）の報告があった。

- a. 昭和 44 年度決算報告：小嶋運営委員より報告があり採決の結果承認された。なお JGG 出版に対して出されていた文部省助成金が 5 万円となり、44 年度より 17 万円となった。
- b. 昭和 45 年度予算案：小嶋運営委員より説明があった。今年度より印刷費が値上げになったが、その大部分は印刷費値上げに当てられ、これが学会財政のゆとりを増すことになる。予算案は一部修正の上、採決結果承認された。

### c. 次期総会および講演会の開催地

近藤一郎運営委員より次期開催候補地として、京都大学が提案された。これに対して、前田坦会員が、会場が学外になることもあるが、受けるとの発言があり、次期開催予定地に京都大学が決った。

8: 大林辰蔵評議員より、電波研究所の皆様が、総会ならびに講演会の  
な運営に払われた数々の努力に対して謝辞が述べられ閉会した。

### 新 入 会 員 紹 介

- 筒 井 稔 (京大-工)  
有 賀 規 (東北大-理)  
吉 野 登志男 (東大-震研)  
犬 木 久 夫 (電 波 研)  
福 間 進 (阪市大-理)  
坂 井 純 一 (名大プラ研)  
堀 田 英 司 (京大-工)  
田 中 高 史 (東大-宇宙研)  
本 蔵 義 守 (東大-震研)  
竜宮寺 修 (電波研-鹿島)  
西 崎 良 (電 波 研)  
大 塚 与左門 (大阪工大)  
広 瀬 徹 (名大-理)  
James Ronald William (Univ. of Sydney)  
Fougere Paul Francis (Air Force Cambridge Res. Labs.)  
Wilkins Joe Jr. (Duval Corporation)  
柴 田 喬 (電 通 大)

昭和44年度決算報告

収入の部

前年度繰越金	1,064,569
長谷川基金繰越金	400,000
正会員会費	615,451
準会員会費	530,951
賛助会員会費	5,000
文部省助成金	170,000
預金利子	25,522
長谷川基金利子	14,025
予稿集売上	234,500
別刷代金	1,090,394
別刷交換会々費	21,000
長谷川基金追加寄付	100,000
計	4,271,412

支出の部

第45回総会費	276,350
第46回総会費	247,080
会誌 J.G.G.	
21-1	384,542
21-2	240,087
21-3	542,530
21-4	480,077
編集事務費	260,000
会報等印刷費	169,530
通信郵送費	184,160
消耗品費	77,340
会合費	17,200
学会連合費	1,000
謝金	348,074
マイクロフィルム複製費	32,060
交通費	4,535
田中館賞々金	20,000
長谷川杯事業費	12,000
長谷川先生お見舞金	5,100
長谷川基金繰越金	502,025
繰越金	467,722
計	4,271,412

昭和45年度予算案

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	467,722	第47回総会費	260,000
長谷川基金繰越金	502,025	第48回総会費	260,000
正会員会費	900,000	会誌 J.G.G	
準会員会費	700,000	22-1.2	1,200,000
賛助会員会費	20,000	(IAGA-IASPEI 特集号)	
文部省助成金	170,000	22-3	600,000
預金利子	30,000	22-4	600,000
長谷川基金利子	20,000	編集事務費	270,000
予稿集売上	240,000	会報等印刷費	180,000
別刷代金	1,700,000	通信郵送費	200,000
別刷交換会費	22,000	消耗品費	80,000
IAGA-IASPEI 出版費	360,000	会合費	25,000
計	5,131,747	学会連合費	1,000
		謝金	300,000
		交通費	5,000
		田中館賞々金	25,000
		長谷川杯事業費	12,000
		長谷川基金繰越金	510,025
		繰越金	603,722
		計	5,131,747

## 第47回 総会ならびに講演会後記

第47回日本地球電気磁気学会講演会は、6月3日から6月6日までの4日間、今なお周囲に麦畑の残る府中市市民会館で予定通り開催されました。会場と、お世話を頂いた電波研究所との間は、かなりの距離があり、準備や連絡などひろいろ大変だったことと思いますが、河野哲夫大会委員長はじめ電波研究所の皆様方の行き届いたお世話によって、4日間の日程を大変円滑にまた快適に終えることができました。

今回は実に142篇の一般講演の申込みがあり、4日間フルに二つの会場で講演がおこなわれるという状況になりました。講演の取消しがあつて、実際に行われた講演は132篇でしたが、今回は会期中で参会者の顔ぶれが入れ替るといふことも少く、いろんな分野の会員が始めから終りまで二つの会場に出席して、熱心な討論が繰りひろげられました。

3日目、6月5日の午後は、大会委員会で用意されたバスで、国分寺の電波研究所へ移動し、記念撮影、特別講演、総会、研究所内見学、懇親会の行事が行われました。

特別講演として

赤祖父俊一氏 (アラスカ大)

「Magnetospheric Substorm」

上田誠也氏 (東大震研)

「The New Global Tectonics」

の2講演が行われました。いずれも、地球外部および内部の物理学で、現在もっとも重要だとされている課題を、大変興味深く、かつ適切に講演して頂き、非常に有益でした。

特別講演に続いて、第47回総会が別項報告の通り開かれ、最後に大林辰蔵評議員より会員を代表して、この総会ならびに講演会の一切のお世話をしてお下さった河野大会委員長はじめ電波研究所の方々に対して感謝の言葉が述



べられて総会を終了しました。

その後、2つのグループにわかれて、研究所内を見学させて頂きました。宇宙開発事業団の大規模な実験設備に驚いたり、人工衛星を使った電離層トッピングの見事な成果に感心したりしたあと、懇親会場に模様替えされた講堂に戻り、なごやかな会員交歓のひとつきを過させて頂きました。

以上のような経過で、4日間の大会を非常に円滑に充実して終了することができました。これはひとえに大会をお世話下さった河野大会委員長はじめ、電波研究所の皆様方の並々な御尽力の賜物であります。この紙面を借りて厚くお礼を申し上げる次第です。

### IUGG 改組案

総会で永田武評議員の国際情勢報告の中にもあった通り、現在 IUGG の改組が問題になっています。そのために J.Coulomb 教授を Chairman とし、J.Levallois, T.Malone, M.Nicolet, R.W.Stewart の諸氏をメンバーとする小委員会が1969年9月に発足しましたが、1970年5月13日に中間報告書を発表しました。これは IUGG および URSI を改組して、ひとつの大きな Union 制にするか、あるいは Union の集りからなる Federation 制にするかを提案したものであります。このような改革によってもっとも影響を受けるのは IAGA ですので、以下にその中間報告の概略を御紹介します。

1. URSI, IAGA, IUCSTP が同じ問題をとり扱っている現状は異常であり改革の必要がある。
2. 現在の IUGG の Association は、研究活動をおこなう上で適当な大ききであるから、これらを新しい組織を考える上での基礎にする。

但  
に分  
3. U  
例え  
とし  
4. J  
IU  
う  
a  
d  
g  
こ  
E  
7  
5.

6.

但し、IAGA を二つの Association (Geomagnetism and aeronomy) に分けることは考えられる。

3. URSI と IAGA とは関連分野が多いので、まとめて3つの Association 例えば Associations for Radiophysics, Geomagnetism, Aeronomy としてはどうか。

4. Associations が basic units であるとしたとき、新組織が URSI, IUGG, IUCSTP のすべてを重複することなく包含するには、例えば次のような9ヶの Associations が必要と考えられる。

- |                 |                 |                |
|-----------------|-----------------|----------------|
| a) Radiophysics | b) Geomagnetism | c) Aeronomy    |
| d) Geodesy      | e) Seismology   | f) Volcanology |
| g) Meteorology  | h) Oceanography | i) Hydrology   |

これらの Associations をまとめる上で、全く異なる二つの構造が考えられる。ひとつはすべてを含む大 Union 制であり、他はいくつかの Union からなる Federation 制である。

5. 大 Union 制 9ヶの Associations が1ヶの Union にまとまる、名称としては International Union for the Physical Environment または International Union for the Physics of the Environment が考えられる。

6. Federation 制 9ヶの Associations をいくつかの Unions に分類する。例えば、Electromagnetism and Aeronomy(a, b, c) : Geodesy and Physics of the Solid Earth(d, e, f) : Physics of the Atmosphere and Oceans (g, h, i) これらの Union が Federation on the Physical Environment を構成し、ICSU Executive Committee では、3票の投票権をもつ。

Moscow Symposia

来年夏、モスクワで開かれる第15回 LUGG 総会の際に、いくつかの Symposia がおこなわれます。IAGA に関係のあるものとしては、次のようなものがあります。

MOSCOW SYMPOSIA TO BE ORGANIZED BY IAGA  
(other interested Associations and Organizations indicated after title)

1. Solar Corpuscular Effects on the Troposphere and Stratosphere (IAMAP)
2. Electric Fields in Space and their Connection with Atmospheric Effects (IAMAP)
3. Automatic Acquisition of Data and Time Series Analysis (all other Associations )
4. Aurora and Airglow-All Aspects (IAU and URSI)
5. Structure and Evolution of the Earth and Planets (IASPEI and IAVCES)
6. Morphology and Physics of Magnetospheric Substorms (IAMAP)
7. Lunar Variations in Geophysical Phenomena (IAPSO, IGA, and IAMAP)
8. Electric Conductivity in the Earth and Moon (IASPEI and IAVCEI)

MOSCOW SYMPOSIA OF INTEREST TO IAGA BEING ORGANIZED BY ANOTHER ASSOCIATION ( indicated after title )

1. Noctilucent Clouds (IAMAP)
2. Planetary Atmospheres (IAMAP)
3. Ocean Floor Spreading (IASPEI)
4. Energetics and Dynamics of the Mesosphere and Lower Thermosphere (IAMAP)
5. Physics, Chemistry and Shape of the Moon (IAVCEI)
6. Distribution of Stresses within the Earth, Slow Deformation, Mechanism (IASPEI)
7. State of Substances in the Earth's Interior (IASPEI)
8. Forerunners of Earthquakes (IASPEI)

第48回総会ならびに講演会についてのお知らせ

第48回総会ならびに講演会のお世話を京都大学でお引き受け頂いたことは、総会報告にもある通りです。京都大学では、早速御関係の方々が相談された結果、期日、場所等を下記のように決定されました。ここにお知らせ致します。

記

日 時 11月4日(水)～7日(土)

会 場 京都市中京区烏丸通丸太町下ル

京都府立勤労会館

電話 (075) 221-7821

連絡先 京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部地球物理学教室

前 田 坦 会 員

電話 (075) 771-8111

その他 総会、特別講演、懇親会は11月6日午後

「借成学術奨励金」応募要項について

標記奨励金の募集要項が当学会事務所に届いております。当学会の推薦で応募御希望の方は、当学会事務所まで御連絡下さい。

1. 対象：学界において重要と認められる研究のうち、費用不足その他の事由で、その完成もしくは発表に支障を来しているもの。
2. 年1回年額300万円を限度とし、原則として、人文科学、自然科学の両部門から各若干名（またはグループ）。過去の実績では一研究課題あたり30～45万円。
3. 締切期日：6月30日（但し、当学会では書類整理の都合上、6月20日で締切ります。）
4. 選考：日本学術会議で選考し、借成会に推薦。
5. 報告義務：奨励金の使途を報告しなければならない。